

〈小学校 特別活動〉

自己理解を深め、互いのよさや可能性を発揮できる児童の育成  
—キャリア教育の要である特別活動「学級活動」の実践を通して—



浦添市立 宮城小学校

根間 成美



# 目次

<b>I</b>	テーマ設定理由	17
<b>II</b>	目指す子ども像	18
<b>III</b>	研究の目標	18
<b>IV</b>	研究仮説	18
1	基本仮説	18
2	作業仮説	18
<b>V</b>	研究構想図	18
<b>VI</b>	研究内容	19
1	キャリア教育の要である「学級活動」	19
2	目指す資質・能力における重要な三つの視点	19
3	自己理解を深める振り返りの在り方	20
4	互いのよさや可能性を発揮できる環境づくり	22
<b>VII</b>	授業実践	23
1	検証の計画	23
2	検証授業第1回目	24
3	検証授業第2回目	25
4	検証授業第3回目	26
<b>VIII</b>	研究の考察	27
1	作業仮説(1)の検証	27
2	作業仮説(2)の検証	28
3	本研究を通して	31
<b>IX</b>	研究の成果と課題	32
1	成果	32
2	課題	32
	おわりに	32
	主な参考・引用文献	32



自己理解を深め、互いのよさや可能性を発揮できる児童の育成  
—キャリア教育の要である特別活動「学級活動」の実践を通して—

浦添市立宮城小学校 根間 成美

【要 約】

本研究は、キャリア教育の要である特別活動の中でも、その中核となる「学級活動」を通して研究を行う。児童自らが目指す資質・能力における三つの視点を意識化し、自己理解を深める継続した実践を通して、次なる課題解決に向かって互いのよさや可能性を発揮できる児童の育成を目指したものである。

キーワード □自己理解を深める □互いのよさや可能性を発揮できる

□キャリア教育の要である特別活動 □人間関係形成 □社会参画 □自己実現

I テーマ設定理由

現在の日本では、生産年齢の減少、グローバル化の進展等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測困難な時代となっている。複雑で変化の激しい社会を生き抜くためには、変化に主体的に関わり、自ら考え、互いのよさや可能性を発揮しながら、一人一人がよりよく生きるための「社会で生きて働く力」を育成していく必要がある。学校は、今を生きる児童にとって、「未来の社会に向けた準備段階としての場」と同時に、「毎日の生活を築き上げていく場」でもある（中央教育審議会答申、2016）。将来、「社会で生きて働く力」を育むために、学校で学ぶことと社会との接続を意識したキャリア教育の視点は、重要なものであるといえる。

小学校学習指導要領解説総則編(2018)(以降、解説総則編)において、特別活動が学校教育全体を通して行う「キャリア教育の要」となることが示された。新設された学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」では、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うことが求められており、一人一人のキャリア形成と特別活動との関連がより明確になってきている。

特別活動の中核となる学級活動において、私自身の実践を振り返ってみると、これまでよりよい学級づくりに向け、計画して話し合い、実践をして振り返るといった学習過程を積み重ねてきた。その結果、児童が学級のために自分に出来

ることはないか考え、行動する姿が見られるようになってきた。しかし、目的意識の差がみられ、振り返りから次の課題解決に向けた実践へとつながっていかないことも多かった。それは、実践において児童自身が目指す資質・能力を意識した取組になっておらず、活動の見通しを持って振り返ることができていなかったためだと考えられる。そこで、目指す資質・能力と実践とを関連づけ、今の学びと働くことや将来をつなぐことで、児童は自己の将来を意識しながら実践を自分事として捉えることができるようにする。そのことにより、見通しを持って振り返ることができ、実践と実践とのつながりを意識して自己理解を深めることができる。また、実践の過程において、児童が自らの学びを振り返り、価値づけ、意味づけることや互いに共有し合うことができるように教師が児童一人一人の学びを的確に見取り、つなぐためのフィードバックを重視していく。このような学びをつなぐフィードバックの工夫をすることで、児童自身が主体的に課題と向き合い、互いのよさや可能性を生かしながら次なる課題解決へとつなげることができるのではないかと考える。

そこで、本研究では、特別活動の中核となる「学級活動」を通して、実践と実践をつなぎ、児童自身が、目指す資質・能力を意識化することを目指す。さらに、児童が課題を見だし、主体的に課題解決に向かって取り組むことができる環境づくりを工夫する。そのことにより、児童が自己理解を深め、互いのよさや可能性を発揮し、多様な他者と協働しながらこれからの社会を生き抜いていくことにつながると考え、本テーマを設定した。

## II 目指す子ども像

- 1 自分や他者のよさや可能性に気付き、互いに認め合うことのできる児童
- 2 互いに協働して実践する中で、自己の課題解決に向かって主体的に社会参画することができる児童

## III 研究の目標

実践と実践をつなぎ、目指す資質・能力を意識化することや、課題解決に向かって主体的に取り組むことができる環境づくりの工夫をすることで、自己理解を深め、互いのよさや可能性を発揮できる児童の育成を目指す。

## IV 研究仮説

- 1 基本仮説  
キャリア教育の要である特別活動における「学級活動」での実践において、目指す資質・

能力における三つの視点を意識化し、自己理解を深める継続した実践を通して、次なる課題解決に向かって互いのよさや可能性を発揮できる児童を育成することができるであろう。

### 2 作業仮説

(1) 一連の学習過程において、目指す資質・能力における三つの視点を意識した振り返りカードを活用することで、自己の成長や変容を自覚し、自己理解を深めることができるであろう。

(2) 実践と実践への新たな過程において、学びをつなぐフィードバックの工夫をすることで、自己の課題改善につながる課題を見だし、互いのよさや可能性を生かして主体的に解決しようとするすることができるであろう。

## V 研究構想図

### 《 目指す子ども像 》

- 1 自分や他者のよさや可能性に気付き、互いに認め合うことのできる児童
- 2 互いに協働して実践する中で、自己の課題解決に向かって主体的に社会参画することができる児童

### 《 研究テーマ 》

自己理解を深め、互いのよさや可能性を発揮できる児童の育成  
ーキャリア教育の要である特別活動「学級活動」の実践を通してー

### 《 研究の目標 》

実践と実践をつなぎ、目指す資質・能力を意識化することや、課題解決に向かって主体的に取り組むことができる環境づくりの工夫をすることで、自己理解を深め、互いのよさや可能性を発揮できる児童の育成を目指す。

### 《 研究仮説 》

#### 《 基本仮説 》

キャリア教育の要である特別活動における「学級活動」での実践において、目指す資質・能力における三つの視点を意識化し、自己理解を深める継続した実践を通して、次なる課題解決に向かって互いのよさや可能性を発揮できる児童を育成することができるであろう。

#### 《 作業仮説 (1) 》

一連の学習過程において、目指す資質・能力における三つの視点を意識した振り返りカードを活用することで、自己の成長や変容を自覚し、自己理解を深めることができるであろう。

#### 《 作業仮説 (2) 》

実践と実践への新たな過程において、学びをつなぐフィードバックの工夫をすることで、自己の課題改善につながる課題を見だし、互いのよさや可能性を生かして主体的に解決しようとすることができるであろう。

### 《 研究内容 》

- 1 キャリア教育の要である「学級活動」
- 2 目指す資質・能力における重要な三つの視点
- 3 自己理解を深める振り返りの在り方
- 4 互いのよさや可能性を発揮できる環境づくり

授業実践・評価

研究のまとめ・成果と課題

## VI 研究内容

### 1 キャリア教育の要である「学級活動」

小学校学習指導要領解説特別活動編（2018）（以降、解説特活編）の中で、特別活動とは、「身近な社会である学校において各教科等で育成した資質・能力について、実践的な活動を通して社会生活に生きて働く汎用的な力として育成する教育活動」と示されている。特別活動は、各教科の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に向けた実践に結び付けることで、社会生活において重要な働きをする。

一方、キャリア教育とは、「一人一人の社会的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」である。解説総則編において、キャリア教育を効果的に展開するためには、特別活動の学級活動を要としながら、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になると示され、キャリア教育と特別活動の関連がより明確になった。特に、学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」は、児童にとってこれからの学びや自己の生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、教育活動全体の取組を自己の将来や社会づくりにつなげていくための「今」の学びと「将来」をつなぐ役割を果たす。

しかし、安部(2019)は、「学級活動(3)で特定の実践を行うことのみがキャリア教育ではない。キャリア教育は学校教育全体で行うことを前提に、学級活動(1)を基盤とした特別活動における多様な集団活動を通し、多様な他者と関わったり、学級・学校生活の中で役割を果たしたり、振り返りを次の課題解決に生かしたりすることで、子供たちは自己理解を深め、よりよい自分づくりについて考えることができるようになる」と指摘している。

このことから、学級活動(3)と学級活動(1)は、互いに関連し合いながら資質・能力が育まれるものであるといえる。

### 2 目指す資質・能力における重要な三つの視点

#### (1) 資質・能力を育むための学習過程

学級活動を通して育成を目指す資質・能力は、「①問題の発見・確認、②解決方法等の話し合い、③解決方法の決定、④決めたことの実践、⑤振り返り」といった基本的な学習過程の中で育まれるということが解説特活編の中で示されている(図1)。

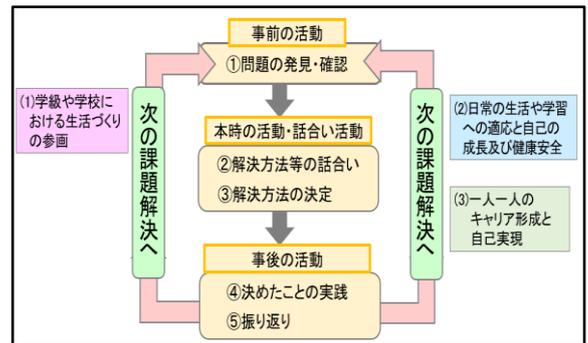


図1 学級活動(1)と(2)(3)の学習過程

しかし、杉田(2019)は「なすことによって学ぶ」を方法原理にしている特別活動は、単に活動するだけでは児童の資質・能力を十分に育成することはできないと指摘している。

特に、学習過程の中でも「振り返り」から「次の課題解決へ」においては、一連の学習過程における取組を振り返り、自己を見つめ直すことができ、実践と実践をつなぐことのできる重要な過程であると考えられる。この過程において、自分を客観的に見つめ、新たな学習や生活の意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりすることで、継続した学びを積み重ねることができる。

このことから、学習過程を単に繰り返すだけではなく、これまでの実践を振り返って成果や課題を明らかにし、その課題を自分たちで見だし、次なる課題解決に向かうという学習過程を積み重ねる中で資質・能力を育成できるようにすることが大切であると考えられる。児童にどのような資質・

能力を育みたいのかを大事にしながら、児童が新たな価値を創造的に生み出していくことができるようにしていきたい。

- (2) 目指す資質・能力における三つの視点  
学級活動で育成を目指す資質・能力として、解説特活編では、次のように例示されている(表1)。

**表1 学級活動で育成を目指す資質・能力**

知識及び技能	学級における集団活動に進んで参画することや意識的に健康で安全な生活を送ろうとするなどの意義について理解するとともに、そのために必要となることを理解し身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

さらに、目指す資質・能力に関わって、それらを育成する学習過程において重要な意味を持つ三つの視点(人間関係形成、社会参画、自己実現)が示された。本研究では、この三つの視点をそれぞれ記号化し、様々な場面で活用していくことにする(表2)。

**表2 目指す資質・能力における三つの視点**

視点	記号	内容
人間関係形成	♡	集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点
社会参画	◇	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点
自己実現	☆	集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点

児童は、その時々の「なりたい自分」に近づこうと努力すると同時に、多様な他者とよりよくかかわろうとし、さらには所属する集団の一員としての役割を果たそうとすることから、この三つの視点は、密接に関連しており、明確に区別されるものではなく、学習過程のそれぞれの場面で適切に発揮できるようにしていく。

さらに、安部(2019)は特別活動で育成を目指す資質・能力の三つの視点は、キャリア教育が育成を目指す基礎的・汎用的能力(「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」と軌を一にしており、従前からこの三つの視点の資質・能力を育成してきた特別活動は、キャリア教育の中心的な役割を果たしてきたと指摘している。

そこで、本研究では、目指す資質・能力における三つの視点を照らし合わせ、次のように関連づけることにした(表3)。

**表3 目指す資質・能力と三つの視点との関連**

知識及び技能	♡多様な他者と協働する ◇合意形成する ☆意思決定する	意義の理解とその方法
思考力、判断力、表現力等	♡互いのよさや可能性を生かす関係づくり ◇課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図る ☆自己の在り方・生き方を考え、意思決定する	
学びに向かう力、人間性等	♡人間関係をよりよいものにしてしようとする ◇日常生活をよりよいものにしてしようとする ☆自己のよさや可能性を発揮しようとする	

このように、目指す資質・能力を人間関係形成(他者)・社会参画(社会)・自己実現(自己)とのかかわりの視点で考えることで、より明確に捉えることができる。そうすることで、学級活動には(1)や(2)、(3)と特質の違いはあるものの、実践と実践とのつながりが見えやすくなり、学びの連続性を実感することができる。

本研究では、以上のように目指す資質・能力を育成するために、三つの視点と資質・能力を関連づけ、集団や自己の課題の解決を図る学級活動の実践に取り組んでいく。

### 3 自己理解を深める振り返りの在り方

小学校学習指導要領(2018)では、「学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげた

り、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」と示されている。さらに、文部科学省が示した「キャリア・パスポート」例示資料等(2019)において、特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し、振り返ることができるポートフォリオ的な教材「キャリア・パスポート」を作成し、活用することが求められている。この中で、「キャリア・パスポート」の目的について次のように示されている(表4)。

**表4 キャリア・パスポートの目的**

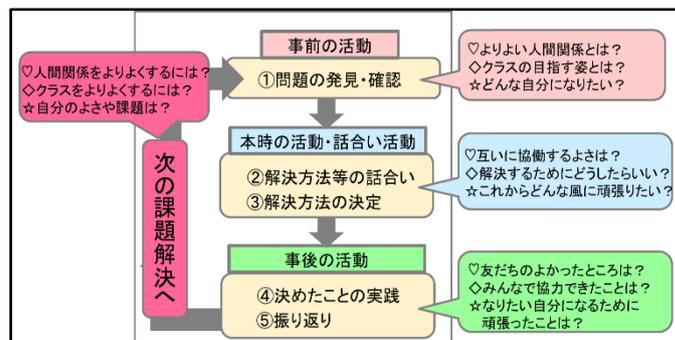
小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐもの。教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

杉田(2019)は、キャリア・パスポートの取組においては、振り返りを重視しており、児童一人一人の的確な自己認識をすることからスタートするという点が特徴であると指摘している。さらに、その目的として活動を振り返ることや、それらを蓄積することを手段として主体的に学びに向かう力を育み、児童一人一人の自己実現につなげていくことを示している。また、その活用方法として、①児童が自分の成長を実感することができる、②互いの頑張りを交流できるという2つを挙げている。

本研究では、このキャリア・パスポートの目的と活用方法を生かして、自己理解を深める振り返りカードを作成して活用する。特に、事前から本時、事後における学びの変容を自覚することができるよう、学びのプロセスを大切に実践していく。

しかし、特別活動指導資料(2019)において、「一連の活動となるようにするために、各活動を振り返る視点が大切」だと示されている。つまり、学びをただ振り返るのではなく、視点を持って振り返ることが重要となる。そこで、目指す資質・能力における三つの視点「人

間関係形成」「社会参画」「自己実現」を振り返る視点とする。学級活動(1)(2)(3)の目指す資質・能力はそれぞれ異なるが、共通する三つの視点をもとに振り返ることができる。また、児童も教師も実践と実践とのつながりを考える過程において、自己の成長や変容を自覚し、さらに自己理解を深めることができると考える。例えば、資質・能力の一つである「学びに向かう力・人間性等」においては、「人間関係をよりよいものにしようとする(♡)」、「日常生活をよりよいものにしようとする(◇)」、「自己のよさや可能性を發揮しようとする(☆)」という力を高めることができると考える。そのためには、見通しを持った振り返りはもちろんのこと、事前に目標を立てて自分はどうだったかを振り返り、次の課題解決につなげることができるようにしていく必要がある。事前から事後までの学習過程において、三つの視点を意識化し、なりたいたい自分を思い描く場面を意図的に準備する必要がある。そこで、事前から事後までの過程における自己理解の深まりを次のように示した(図2)。



**図2 学習過程における振り返りの在り方**

その際、児童が気付きや考えを書き留めるだけではなく、教師と児童、児童同士が気付きや考えを共有することも重要である。そうすることで、自分自身のよさに気付き、多面的・多角的に自己理解を深めることができる。

本研究では、振り返りの視点を示し、自己を振り返ることのできる場面をそれぞれ設定し、一連の学習過程を通して自己理解を深めることができるよう実践していく。

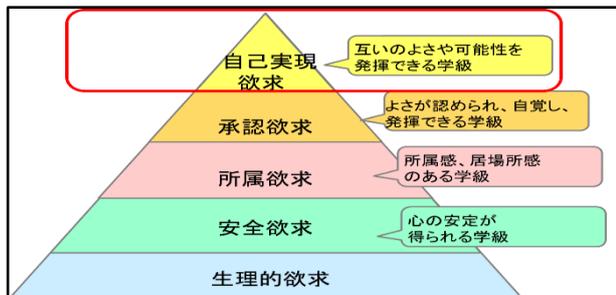
#### 4 互いのよさや可能性を發揮できる環境づくり

##### (1) 互いのよさや可能性を發揮できる学級

解説特活編では、学級の集団づくりは、児童一人一人のよさや可能性を生かすと同時に、他者の失敗や短所に寛容で共感的な学級の雰囲気醸成するものであり、学級活動を通して、学級経営の充実を図りながら、学びに向かう集団の基盤を形成すると示されている。

杉田(2009)は、マズローの唱える欲求段階説を引用して特別活動の重要性を説明している。本研究では、マズローの唱える欲求段階説と学級活動とのかかわりを関連させて以下のような図を作成した(図3)。

図3 マズローの欲求段階説と学級活動とのかかわり



マズローの唱える自己実現欲求を「互いのよさや可能性を發揮できる学級」と位置づけることにする。まず、学級が児童にとって安心できるものであることが前提となる(安全欲求)。次に、自分の役割があることで自分のよさを發揮することができる(所属欲求)。そして、互いの頑張りを認め合い、価値づけられることで、自分のよさを自覚することができる(承認欲求)。そうすることで、信頼や自信を持って、互いのよさや可能性を發揮できる学級(自己実現欲求)につながると考える。

##### (2) 学びをつなぐフィードバックの工夫

ジョン・ハッティは、「教育の効果」(2018)で、学力に最も影響を与えるのはフィードバックであることを指摘した。フィードバックは、一連の学習過程や実践と実践をつなぐ過程において、仲間や教師とかわりながら、互いに価値づけ、意味づけ、共有し

合うものである。学びをつなぐフィードバックは、児童のこれまでの学びや今の学びとなりたい自分をつなぐことのできる重要なものであると考える。

そこで、学びをつなぐフィードバックにかかわる以下の取組を行い、互いのよさや可能性を發揮できる児童の育成を目指す

##### ① 実践と実践のつながりの可視化

活動から学んだことを共有し、三つの視点を取り入れた学級のあゆみを掲示する。学びのプロセスが残るような掲示物をもとに実践を振り返ることで、自分の成長を実感し、次の課題につなげることができるようにする。

##### ② なりたい自分を意識した意思決定

児童が主体的に取り組むためには、なりたい自分を意識することが重要だと考える。自己理解の積み重ねが、なりたい自分を意識し、これからの自分にとってどういう意味や価値があるのかを自ら考え、意義や価値について自分の言葉で語れるようになる。なりたい自分を意識した意思決定ができるよう、今の自分を見つめ、これからの学びや生き方を見通すことができるようにする。

##### ③ 互いのよさや頑張りの共有と自覚化

互いのよさや頑張りを共有し、認め合うことで、自分や友達の知らなかったよさに気づき、一人一人の学びの自覚化につながる。そうすることで、児童相互のよりよい人間関係を育み、児童の自己有用感を高めることができるようにする。

##### ④ 学んだことへの価値づけ

教師が言葉を掛けたり、助言したり、コメントを入れ、学んだことを価値づけていくことで、児童一人一人のよさや可能性を引き出すことができる。そうすることで、児童は自身の学びを自覚し、成長を実感し、次の活動への意欲や実践のつながりを見いだすことができる。

## Ⅶ 授業実践

### 1 検証の計画

	日程	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童の姿 (評価方法)	
主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	<b>実践1 題材</b> 「学校図書館を上手に使おう～調べたいことがあるときは～」				
	事前	12/5	学校図書館の利用についてのアンケートを記述する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の取り組みについて振り返り、主体的に図書館を活用することができるようにする。</li> </ul>	<b>【知識及び技能】</b> ・これまでの自身の図書館とのかかわりについて考える。 (事前振り返りカード)
	本時	12/10	現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えながら、進んで学習や生活に生かそうと意思決定することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの自身の図書館利用を振り返り、現在及び将来の学習につながることに気付き、主体的に取り組むことができるようにする。</li> </ul>	<b>【思考力・判断力・表現力】</b> ・自己のよさや課題をもとに、なりたい自分に近づくための意思決定をしている。 (話し合い・振り返りカード)
	事後	12/10 ～ 12/14	自分の立てた目標が達成できたのか適宜振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な振り返る場を設定し、継続した取り組みになるよう助言する。</li> </ul>	<b>【学びに向かう力・人間性等】</b> ・決めたことの実践に向けて取り組もうとしている。 (観察・振り返り)
		12/16	自己を見つめ、これまでの取組を振り返り、よさや新たな課題を出し合い、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを振り返り、これまでの取組が将来の自己実現へとつながっていることを確認する。</li> </ul>	<b>【学びに向かう力・人間性等】</b> ・これまでの取組を振り返り、図書館とのかかわりを考える。 (事後振り返りカード)
学級や学校における生活上の諸問題の解決	<b>実践2 議題</b> 「ステキな先輩になるぞ！1年生とのSUNSUN交流会をしよう」 ◆計画委員会 ◇全員				
	事前	12/13	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆議題を選定する。</li> <li>◆提案理由や話し合いの柱を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本取組が何のために行うのか、全員が共有できるように①クラスの現状(課題)②課題の改善策、③目指すクラスの姿の視点を確認する。</li> </ul>	<b>【知識及び技能】</b> ・計画委員会の役割や話し合い活動の準備の仕方など、進め方を理解している。 (観察、活動計画書)
		12/16	◇学級会の議題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>選定した議題について全員に知らせて承認を得る。</li> </ul>	<b>【知識及び技能】</b> ・議題の意義を確認し、目指す姿に向けてこれからみんなで協働して実践していくことを理解する。(観察)
		12/17	◇学級会ノートに自分の考えを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案理由を踏まえた自分の考えになっているのか確認するよう助言する。</li> </ul>	<b>【思考力・判断力・表現力】</b> ・提案理由や条件に合った内容を考え、学級会ノートに書いている。 (学級会ノート)
		12/18	◇ステキな先輩とは、どんな先輩なのか、集会で目指す姿について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな先輩になりたいのか、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点を確認する。</li> </ul>	<b>【思考力・判断力・表現力】</b> ・これまでの自分を振り返り、ステキな先輩を目指して、どんな集会の内容がよいか考えている。 (発言・事前振り返りカード)
		12/18	◆全員の学級会ノートを確認して話し合いの準備や仕事内容の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童のワークシートをもとに比較・分類する。</li> <li>学級会の進行がうまくいくように、話し合いの流れを確認する。</li> </ul>	<b>【知識及び技能】</b> ・話し合うべきことや計画委員としての役割を理解している。 (観察、活動計画書)
	本時	12/19	「1年生とのSUNSUN交流会をしよう」 ◇議題こそって話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生との交流会が、①安全、②楽しく、③仲良くできる内容になっているのか提案理由や三つの視点を確認する。</li> </ul>	<b>【思考力・判断力・表現力】</b> ・提案理由や条件に合った内容を考え、合意形成を図ろうとしている。 (観察、振り返りカード)

	事後	12/20 ～ 12/23	◇係ごとに、具体的な活動計画を立てて協力して準備をする。	・協力して活動できるように、役割分担を再確認する。	【学びに向かう力・人間性等】 ・決めたことの実践に向けて進んで取り組もうとしている。(観察)
		12/24	◇一年生との交流会をする。	・集会のねらいを確認して、協力して実践できるように声かけする。	【学びに向かう力・人間性等】 ・集会のねらいを意識して、協働して取り組もうとしている。(観察)
		12/25	◇交流会の振り返りをする。	・自分のよさや互いのよさを自覚できるように、これまでの集会活動への取組を三つの視点をもとに振り返る。	【学びに向かう力・人間性等】 ・一年生との交流会における自他のよさの振り返りをもとに、次の活動に生かそうとしている。(事後振り返りカード)
主体的な学習態度の形成と学校図書館等の利用	<b>実践3 題材「家での学習を見直そう～短い時間でもこつこつと～」</b>				
	事前	1/9	家庭学習についてのアンケートを記述する。	・これまでの自身の家庭学習への取組を振り返ることができるよう、自分の言葉で記述できるようにする。	【知識及び技能】 ・これまでの自身の家庭学習とのかかわりについて考える。(事前振り返りカード)
	本時	1/14 <b>検証3</b>	現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えながら、進んで学習や生活に生かそうと意思決定することができる。	・これまでの自身の家庭学習を振り返り、現在及び将来の学習につながることに気づき、主体的に取り組むことができるようにする。	【思考力・判断力・表現力】 ・自己のよさや課題をもとに、なりたい自分に近づくための意思決定をしている。(話し合い・振り返りカード)
	事後	1/15 ～ 1/20	自分の立てた目標が達成できたのか適宜振り返りをする。	・定期的な振り返る場を設定し、継続した取組がこなれるよう助言する。	【学びに向かう力・人間性等】 ・決めたことの実践に向けて取り組もうとしている。(観察・振り返り)
		1/21	自己を見つめ、これまでの取組を振り返り、よさや新たな課題を出し合い、共有する。	・学習したことを振り返り、これまでの取組が将来の自己実現へとつながっていることを確認する。	【学びに向かう力・人間性等】 ・これまでの取組を振り返り、頑長したことだけでなく、新たな課題に気付く。(事後振り返りカード)

## 2 検証授業 第1回目 (実施日 2019年12月10日)

### (1) 題材「学校図書館を上手に使おう～調べたいことがあるときは～」

学級活動 (3) ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の利用

#### (2) 本題材のねらい

- ・学校図書館の意義を理解し、主体的に学校図書館を活用しようとする。
- ・これまでの自分を振り返り、現在及び将来とのつながりを考え、自己理解を深めることができる。

#### (3) 授業の概要

	主な学習内容	○児童の反応	□教師の手だて
導入	1. アンケートの結果を見ながら、自身の図書館利用について振り返る。 2. 話し合いのめあての確認	○図書館に行くとき落ち着く。 ○いろんな世界に出会える。 ○でも、なかなか利用できていない	□アンケートの結果から、良さだけでなく、これまでの自分の課題にも目を向けさせる。
つなぐ	図書館をよりよく利用するためにできることを考えよう。		
展開	3. これまでの自分と学校図書館とのかかわりはどうだったのか振り返る。	○調べるために利用する。 ○6年生みたいに顔や声を想像しながら読むと面白そう。	□自分を振り返ることができるよう、どうして？今の自分は？と他者の意見と比べて聞くことを意識づける。
さぐる	4. 6年生の図書委員の動画を見て、学校図書館の意義を探る。	○6年生みたいに同じ本やシリーズものを読むと、友達とのコミュニケーションにもつながりそう。	

見つける	5. なりたい自分に向かって、どのように利用できるのかグループで話し合う。	○今よりもっと本を読みたい。 ○図書館に行ってから休み時間をする。 ○お友達のオススメの本を聞く。 ○続きを想像しながら読むと、わくわくしそう。 ○友達と一緒に借りると楽しそう。	□これまでの自分を振り返り、どうしたら出来るようになるのか考えさせる。 □振り返りカードをもとに、グループで対話して、何が出来るのか互いに考えを出し合う。
まとめ 決める	6. これからのよりよい取組につながるよう意思決定する。	○目標を決める。 ○返す日は、いつにするのか計画を立てて読む。 ○想像しながら読む。	□何をどのように頑張るのか、見つけたことや友達の話の参考をしながら決める。

### 3 検証授業 第2回目 (実施日 2019年12月19日)

- (1) 議題「ステキな先輩になるぞ！1年生とのSUNSUN交流会をしよう」  
学級活動 (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- (2) 本議題のねらい
  - ・これまでの自分を振り返り、三つの視点を意識して合意形成を図る。
  - ・ステキな先輩に向かってどのように頑張るのか、なりたい自分に向かって互いのよさや可能性を生かして実践する (図4)。

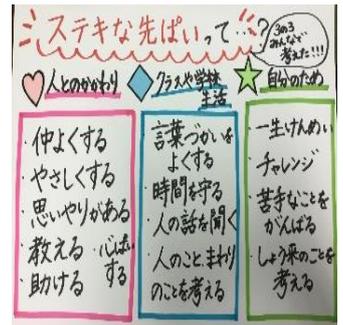


図4 児童の考えをまとめた掲示物

#### (3) 授業の概要

	主な話合いの順序	○児童の反応	□教師の手立て						
導入	1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由やめあての確認条件 ①安全 ②楽しく ③仲良く 決まっていること 交流会：12月24日(水) 5校時 場所：体育館 5 教師の話	議題《ステキな先輩になるぞ！ 1年生とのSUNSUN交流会をしよう》 提案理由 <table border="1"> <thead> <tr> <th>【今の学級】</th> <th>【すること】</th> <th>【目指す姿】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・クラスの合言葉を意識して取り組んでいるが、相手のことを理解しようとする気持ちが足りない</td> <td>・憧れの6年生のようになれるよう、1年生との交流会をする</td> <td>・1年生と一緒に学んで、相手のことを理解しようとする気持ちが高まり、クラスの合言葉に近づき、憧れの先輩になれる。</td> </tr> </tbody> </table>	【今の学級】	【すること】	【目指す姿】	・クラスの合言葉を意識して取り組んでいるが、相手のことを理解しようとする気持ちが足りない	・憧れの6年生のようになれるよう、1年生との交流会をする	・1年生と一緒に学んで、相手のことを理解しようとする気持ちが高まり、クラスの合言葉に近づき、憧れの先輩になれる。	□めあてをもって自分の役割に臨めるように励まし、自信を持たせる。  □提案理由や条件を確認して、話合いへの意欲付けを図るために、視点を持った話合いができるようにする。
【今の学級】	【すること】	【目指す姿】							
・クラスの合言葉を意識して取り組んでいるが、相手のことを理解しようとする気持ちが足りない	・憧れの6年生のようになれるよう、1年生との交流会をする	・1年生と一緒に学んで、相手のことを理解しようとする気持ちが高まり、クラスの合言葉に近づき、憧れの先輩になれる。							
展開 出し合う 比べ合う まとめる	6 話合い (1)話し合うこと① (図5) 「リレーの内容を決めよう」 	○紙コップタワー ○わなげ ○めいろ ○何でしょうクイズ ○借り物競走 ○エセダイヤさがし ○ボール運び ○新聞運び ○大玉転がし ○手つなぎ ○なわとび  ♡わなげだと、教える時に仲良くなれるから人とのかわりもよくなる。 ◇わなげだと、わくわくできるし、ゆずり合いや協力ができる。 ☆言葉づかひがよい自分になりたいから、借り物競走だと、「借りていいですか？」と聞かれたら「いいですよ」と言えるから先輩としていい。	□学級会ノートをもとに、児童の案はあらかじめ整理して掲示しておく。  □どの種目に決まってもいいように、それぞれの意見のよさを理解し、比べ合うことができるように助言する。  □提案理由や条件だけでなく、三つの視点を意識して話し合うことができるように確認する。						

図5 比べ合う場面での児童の様子

出し合う 比べ合う まとめる	(2)話し合うこと② 「どんな役割が必要か」	○メダル係 ○司会係 ○表彰係 ○プログラム係 ○かざりつけ係 ○実況中継係 ○ルール係 ○審判係 ○歌係 ○体そう係 ○工作係	□交流会の会場図を提示して、具体的な役割をイメージできるようにする。
ま と め	7 決まったことの発表  8 話し合いの振り返り  9 先生の話  10 おわりの言葉	○わなげ・借り物競走・新聞でボール運び  ○1年生とも仲良く出来て、学級でも仲良くできるよう自分をよりよくしたい。 ○先輩として、よりよい言葉遣いも教えてあげたい。 ○ステキな先輩になれるように頑張る。 ○人とのかわりを高めたいし、自分をよりよくしたいので、みんなで協力したい。	□決まったことを確認し、実践意欲を高める。 □話し合いを通して新たに気付いたことや友達のよさや自分の頑張ったことについて三つの視点をもとに振り返ることができるように助言する。 □これからの実践への見通しを持たせ、事後の活動への意欲が高まるように、児童の頑張りを価値づける。

4 検証授業 第3回目 (実施日 2020年1月14日)

(1) 題材「家での学習を見直そう」

学級活動 (3) ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の利用

(2) 本題材のねらい

- ・家庭学習を通して、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぼうとすることができる。
- ・これまでの自分を振り返り、現在及び将来とのつながりを考え、自己理解を深めることができる。

(3) 展開

	学習内容	○児童の反応	□教師の手だて
導 入  つかむ	1. 事前アンケートから自身の家庭学習についての取組を確認する。 2. 話し合いのめあての確認	○自分のためになる。 ○将来につながる。 ○大切なのは分かっているけど、あまり出来ていない。	□アンケートの結果から、良さだけでなく、これまでの自分の課題にも目を向けさせる。
展 開  さぐる	3. これまでの自分はどのように家庭学習をしてきたのか振り返る。 4. 大谷選手と夜間中学校のおばあさんの話からその意義を探る。	○自分から進んでやっていなかったけど、二人とも自分から進んで学んでいるのがすごい。 ○自分の課題を振り返ることは大切。 ○やり直したら出来るようになる。	□自分を振り返ることができるようどうして? 今の自分は? と他者の意見と比べて聞くことを意識づける。
見 つ け る	5. なりたい自分に向かってどのように家庭学習をするのか話し合う(図6)。 	<p><b>C1: 家庭学習を自分から出来るようになりたい。今まで習ったことを覚えることができるから。</b></p> <p><b>C2: そのためにどんな工夫をするの?</b></p> <p>○自分から出来るようになりたい。 ○少しでも好きになりたい。 ○そのために時間を決めて取り組む。 ○自分のやり方を見つけるといいね。 ○前向きに取り組む。 ○好きか嫌いかで判断しない。</p>	□これまでの自分を振り返り、どうしたら出来るようになるのか考えさせる。  □振り返りカードをもとに、ペアで考えを伝え合い、助言し合う。
ま と め 決める	6. これからのよりよい取組につながるよう意思決定する。	○自分の悪い所(課題)を振り返る。 ○中途半端こいさないで最後までやる。 ○帰った後すぐに取り組む。	□何をどのように頑張るのか、見つけたことや友達の話参考にしながら決める。

## Ⅷ 研究の考察

本研究では、【実践1】学級活動(3)「学校図書館を上手に使おう」、【実践2】学級活動(1)「ステキな先ばいになるぞ！1年生とのSUNSUN 交流会をしよう」、【実践3】学級活動(3)「家での学習を見直そう」の3つの実践を行った。ここでは、3つの実践のつながりを意識しながら、具体的な手だてとその結果及び考察を中心に述べる。

### 1 作業仮説(1)の検証

一連の学習過程において、目指す資質・能力における三つの視点を意識した振り返りカードを活用することで、自己の成長や変容を自覚し、自己理解を深めることができるであろう。

#### (1) 今の自分を見つめ、なりたい自分に近づく

##### ① 手だて

児童がなりたい自分になるためのよりよい意思決定につなげるためには、今の自分を見つめることが重要だと考える。そこで、今の自分を見つめ、なりたい自分に近づくことのできるようなバロメーターを活用して実践した(図7)。

図7 今の自分を見つめるバロメーター

##### ② 結果

今の自分を見つめるバロメーターを活用し、今の自分を客観的に見つめ、互いの思いを聞き合うことで、なりたい自分を意識した意思決定につなげることができた。このことは、なりたい自分を意識して取り組んでいるかの意識調査の結果(3年3組全31名対象、以降同様)から見取ることができる(図8)。

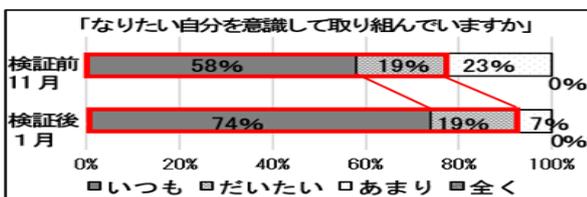


図8 なりたい自分の意識調査

### ③ 考察

児童は、バロメーターを活用しながら、これまでの自分を振り返り、どのくらい出来ているのか、出来るようになるにはどのように頑張ったらよいのか、今の自分を深く見つめ、考える姿が見られた。表5のグループでの話し合いでは、バロメーターを見せながら、今の自分を振り返るS1に対して、S3がアドバイスをすることで、S1は、これからどうしたらよいのかその解決方法を見つけ、意思決定することにつながった。

表5 今の自分を振り返り話し合うグループでの記録【実践1】

(～前略) 見つける場面 (グループ)  
 S1: 今の自分は好きな本を結構読んでるんだけど...好きな本がない時もあってあきらめてしまうことがある。  
 S2: あるある。 (友達の考えに共感する) 今の自分を振り返る  
 S1: どうすればいいかな?  
 S3: 他の本を読んでみたら? 知らない本のよさに気付くかも。  
 S1: じゃあ、知らない本があってもおもしろいかもしれないと思って読んでみようかな。 (友達の考えを生かして意思決定につなげる)

また、表6の全体での話し合いでは、S4が「ずっと遊んでいた」とこれまでの自分を伝えると、S5は「自分も同じで全然(出来ていない)」と共感していた。S6の考えを受け、S7が「人とかかわりにつながる」と三つの視点を意識した発言も見られた。今の自分を見つめることで、なりたい自分に向けての具体的な取組が明確になり、よりよい意思決定へとつなげることができたと考えられる。今の自分を見つめることは、なりたい自分に向けた具体的な取組を意識した意思決定につながる重要なものだといえる。

表6 今の自分を振り返り話し合う全体での記録【実践1】

(～前略) 見つける場面 (全体)  
 S4: 図書館の本をたくさん読める自分になりたい。 これまでの自分を振り返る  
 T: これまでどうだったの?  
 S4: これまでずっと外に遊びに行っていたから、これから休み時間は本を借りてから遊ぶと思う。 友達と自分を比べて、これまでの自分を振り返る  
 S5: 自分も同じで今までは出来ていない。全然。 これからの自分を考える  
 S6: 友だちと一緒に借りて読むと1人で行くより友だちも面白い本を見つけられるから一石二鳥。 三つの視点を意識  
 S7: これは、人とかかわり、コミュニケーションにつながるね。

(2) 三つの視点を意識した振り返りカードの活用

① 手だて

目指す資質・能力における三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を意識した振り返りカードを取り入れ、実践した。それぞれの過程において、身についた力は何だったのか、児童自身が振り返り、自己の成長や変容に気づき、自己理解を深めることができるように実践した。

② 結果

三つの視点を意識した振り返りカードを活用して実践することにより、一連の活動を通して児童が三つの視点を意識し、自己の成長や変容に気づき、自己理解を深めることができた。その結果、取組を通して多くの児童が身につけたい力を意識して取り組んでいることが見えてきた(図9)。

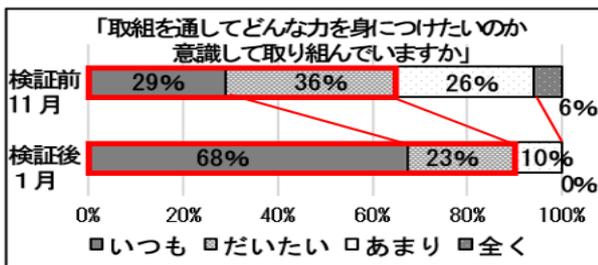


図9 取組に向けての意識調査

さらに、継続して取り組むことで、取り組みを通してどんな力が身についたのか自覚できる児童も増えた(図10)。

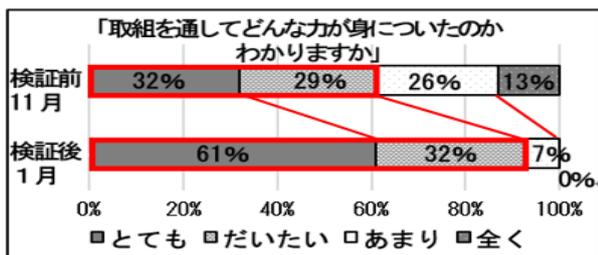


図10 取組を終えての意識調査

③ 考察

事前から事後まで三つの視点を意識化することで、なりたい自分に向かってどうしたらよいのか、身につけたい力を明確にして実践する児童の姿が見られた。表7にある児童の振り返りのように、三つの視点を意識することで、他者や社会、

自己とのかかわりを幅広く考え、自身の成長や変容に気付く振り返りが多く見られた。児童Aは、事後の振り返りにおいて、「自主学习ノートを買うことにした」と記していた。「自分から自主学习をできるようになりたい」と意思決定したことを実践していく中で、友達の自主学习のよさに気づき、さらなる意欲の高まりへとつながり、その後も継続して自主学习に取り組む姿が見られた。このことから、なりたい自分に向けて取り組む中で、三つの視点が相互に関連し合い、自己理解を深めていることが見えてきた。

表7 【実践3】の事後における児童の振り返り

三つの視点	人間関係形成
	社会参画
	自己実現

2 作業仮説(2)の検証

実践と実践への新たな過程において、学びをつなぐフィードバックの工夫をすることで、自己の課題改善につながる課題を見だし、互いのよさや可能性を生かして主体的に解決しようとする事ができるであろう。

(1) 実践と実践をつなげ、課題を見いだす

① 手だて

自己理解を深めることで、自分自身のよさや成長を実感するだけでなく、新たな課題に気付くことができると考える。そこで、次の実践につながるように振り返りをもとに児童同士や教師と児童で対話し、新たな課題を見いだした。

## ② 結果

【実践1】「学校図書館を上手に使おう」を終え、児童は「図書委員の6年生のようになりたい」「自分たちも後輩から憧れられるような先輩になりたい」と振り返っていた。さらに、児童BやCより「自分たちは3年生として1年生や2年生からステキな先輩だと思われるような取組をしたい」という声が上がった。

そこで、【実践2】「1年生とのSUNSUN交流会」の議題を全体に提案し、「ステキな先輩になるために」という目的意識を明確にして実践に取り組んだ。事前の活動において、ステキな先輩とはどんな先輩なのか、今の自分はどうか振り返ることで、なりたい自分に向けて自己の課題を見いだすことができた。

次の取組へとつなげる意識調査においても、取り組んだことを振り返り、よりよくするために次の取組につなげている児童が増えたことがわかる(図11)。

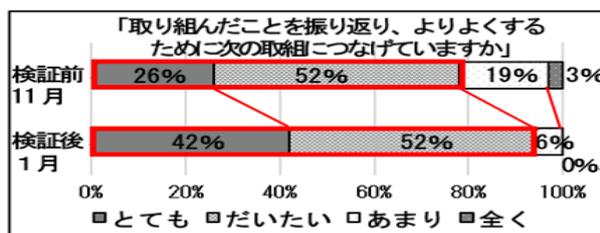


図11 次の取組へとつなげる意識調査

## ③ 考察

事前の活動において、今の自分を振り返る場面で、児童Dは、ケンカの時に口が悪くなってしまうという言葉遣いが悪い自分に気付き、「自分で自分の気持ちをおさえることができるような自分になりたい」と話していた。今の自分を振り返り、話し合うことにより、課題を見いだすことができたと考えた。

何のために取り組むのか、その目的を全体で共通確認し、自己の課題と向き合うことで、よりよくするために次の取組につなげることができたと考えた。

## (2) 課題を主体的に解決する

ここでは、3つの実践の中でも特に【実践2】での具体的な取組を中心に述べる。

### ① 手だて

課題解決に向かって三つの視点を意識し、合意形成を図り、一連の実践において課題解決することを目指した。

### ② 結果

#### ア 本時より

学級会において、交流会のリレーの内容について合意形成を図った。しかし、自分のやりたい種目のよさやその根拠を説明する話合いとなってしまう。そこで、三つの視点に目を向けるよう教師が働きかけると、そこから種目のよさではなく、三つの視点を意識した話合いとなった。三つの視点を可視化できるようにした結果、児童は互いの思いや願いに耳を傾け、そのよさを生かした種目にしようと合意形成を図ることができた(図12)。

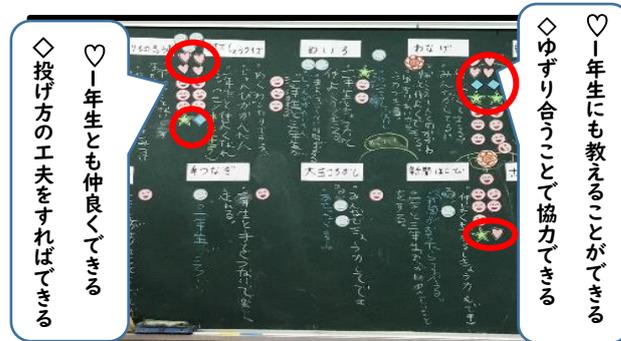


図12 三つの視点を意識した本時の板書

#### イ 事後より

本時の話合いで、リレーの内容として①わなげ②借り物競走③新聞でボール運びの3つに決まった。自分のよさを生かすことのできる役割分担を行い、実践に向けての準備に取り組んだ。

児童Eは、学級会で「借り物競走が決まっていやでした」と振り返っていた。実践に向けて準備をする中で、「借り物競走のルールの内容を考えたい」とルール係になった。どんな借り物競走だ

ったらみんなが楽しめるのか一生懸命考える姿を見た児童Bは、「私も一緒に考えたい」と児童Eの思いを聞きながら一緒に考えていた。集会後の児童Eの感想には、「借り物競走はやってみると楽しかった」と書かれていた。

共通の目的のもと、一人一人が課題解決に向かって互いのよさや可能性を生かして取り組む姿が見られた交流会となった(図13)。

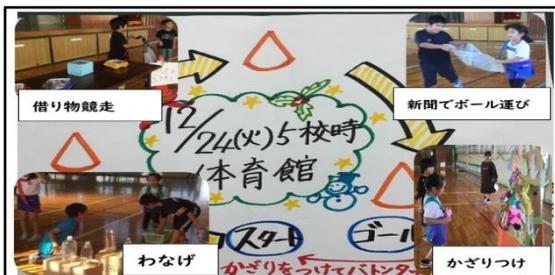


図13 SUNSUN 交流会の様子

事後の振り返りには、「大変だったけど頑張ってたよ良かった」「今よりもよりよい自分になりたい」「一年生のために頑張ったから次は自分の苦手なことにもチャレンジしたい」と次の実践につながる振り返りが多く見られた。【実践3】家での学習を見直そうでも、ステキな先輩を意識し、「1年生にも見せられるような家庭学習にしよう」「勉強でも自慢できる3年生になりたい」という振り返りが見られ、児童の思いの高まりにつながった。

### ③ 考察

#### ア 本時より

学級会における合意形成の場面の授業記録である表8を分析すると、S5は事前のワークシートにも「言葉づかいが悪いからよくなりたいたい」という自分の思いを綴っていた。借り物競走をすることで、言葉遣いをよくして仲良くしたいというS5の思いを受け、当初は「持ってくるものが必要だと、忘れていたら出来なくなるからやめた方がいい」

という理由で反対していたS3も「いいね」とつぶやく姿が見られた。仲間の思いを知ることで、その意見の良さにも気付くことができたからだと考える。

このことから、三つの視点を意識することは、条件だけでなく、互いの思いや願いを生かした合意形成につながる重要なものであると考える。

表8 合意形成の場面の授業の記録

#### (～前略)比べる場面

S1:♡と☆です。人にやさしくなりたいたいから、1年生が入らなくても、わなげだと3年生がコツを教えてあげられるから、人とのかかわりも自分をよりよくするもできるから、わなげがいい。

S2:♡です。借り物競走は、持っている人を探して借りて終わったら返したりするから、友だちになったりできるかもしれないから。

S3いいね。仲間思いを受け、

(～中略) そのよさに気付く場面

S4:わなげで投げ方工夫をすることで、譲り合いをしたり先に投げさせることで♡や☆につながる。

先輩としての自覚を持ちなりたい自分を意識する場面

S5:借り物競走がいいです。「これ借りていいですか?」って言葉づかいをよくして「いいですよ」って言ってあげられる。その後1年生が「さっきありがとう」とか言ってくれたら、人とのかかわりが良くなるかもしれない。先輩としていいことができる。

S6:♡と☆で新聞運びがいいです。わなげで入らない人がいたら悲しくなるけど、新聞運びだと、優しくして1年生と3年生と一緒にできるから。

S7:S6さんに質問です。出来る人が教えてあげたら自分もやさしい気持ちを持てたり、人とのかかわりも良くなると思う。

S1:S6さんに質問です。入らないって言うけど、わなげは入らなくても3年生がアドバイスしてあげれば入るかもしれない。

わなげの反対案に対して、その改善策を出し合う場面

#### イ 事後より

課題解決を目指して、三つの視点を意識して事前から事後まで実践を積み重ねることで、互いのよさや可能性を發揮しながら協働して実践することにつながったと考える。このことは、一人一人の思いや願いを生かして合意形成を図るだけでなく、事後の活動においても、互いの思いや願いを汲み取りながら、さらなる課題解決に向かうことができた児童BやEの姿からもいえる。

特に、事後の活動では課題解決に向かう過程を振り返ることが重要だと考える。児童Fは、事後の振り返りで、役割分担に集中してしまい、ペアの1年生とリレーが出来ず、悔しかったことを話し始めた。すると、頑張ったことだけでなく、もっと自分に出来ることは

なかったのか、自分をより深く見つめ直そうとする児童の姿が見られた。自分の成長を実感するだけでなく、自分の課題にも目を向けることが、次なる実践への意欲につながると考える。

### (3) 学びをつなぐフィードバックの工夫

#### ① 手だて

児童がこれまでの取組を振り返り、教師と児童だけでなく、児童同士が互いに価値づけ、意味づけ、共有し合うことで、互いのよさや可能性を發揮できる関係につながるよう実践した。

#### ② 結果

##### ア 実践と実践のつながりの可視化

実践と実践をつなぐために、事前・本時・事後と三つの視点を意識して、つながりを可視化できる掲示物を作成した。実践の成果や課題をまとめ、児童自身が振り返り、次の実践への課題解決に向けた意欲につながった(図14)。

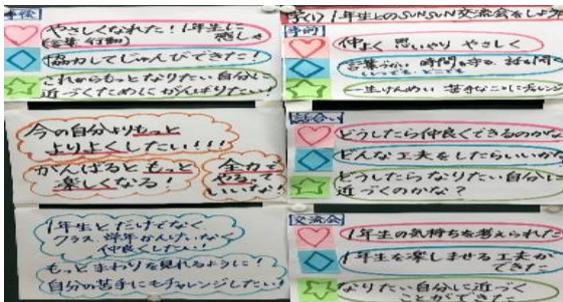


図14 実践のつながりと三つの視点を意識した掲示物

##### イ なりたい自分を意識した意思決定

「何のために」という目的意識を大切にし、一つ一つの実践において「どんな自分になりたい?」となりたい自分を意識づけた。事後の活動を終え、バロメーターで意思決定した時の自分を振り返り、自分の頑張りや成長を実感する児童の姿が見られた。

##### ウ 互いのよさや頑張りの共有と自覚化

事後の活動において、互いの役割や意思決定に向けての頑なりに気づき、そのよさを伝え合うことで、互いのよさを実感し、自覚化することができた。

#### エ 学んだことへの価値づけ

児童のワークシートに教師がコメントを入れ、児童の学びを価値づけ、意味づけた。自身の学びや成長を実感するとともに、次の課題解決に向けた意欲の高まりにつながった。

#### ③ 考察

日頃から自分自身を振り返ることを大切に、学びをつなぐフィードバックを工夫することで、互いのよさや頑なりに認め合い、互いのよさや可能性を發揮できる関係につながったといえる。特に、結果アの実践と実践のつながりを可視化することで、一連の実践だけでなく、実践と実践のつながりを児童自ら見だし、主体的に取り組む姿につながったと考える。また、学級活動(3)の事後の活動は、一人一人の意思決定に基づく取組になるが、互いに共有し、価値づけることで、自分や互いのよさや頑なりに気づき、互いに協働して実践する姿につながっていくということが見えてきた。

### 3 本研究を通して

本研究は、キャリア教育の要である特別活動における「学級活動」での実践において、児童自身が目指す資質・能力における三つの視点を意識化し、自己理解を深める継続した実践を通して、次なる課題解決に向かって互いのよさや可能性を發揮できる児童を育成することを目的に研究を行った。

「将来のことも大事だけど今頑張ることがとっても大切」「特に、学級会は大切だと思う」「今頑張ることで社会に出てもあきらめずに、ミスしてもくじけずに頑張れるから」と前向きに自分をよりよくしようと取り組む姿が多く見られるようになった。「みんなで協力することが増えた」「相手のことを考えるようになった」と社会参画や人間関係を意識して取り組んできたことが、自己実現意識の高まりにつながったと考える。

学校全体でとったキャリア教育アンケート（「キャリア教育の手引き」2017 参照）における各項目の肯定的な回答の平均を次の表に示した(図 15)。すると、キャリア教育で育成を目指す基礎的・汎用的能力を多くの児童が意識していることが見えてきた。

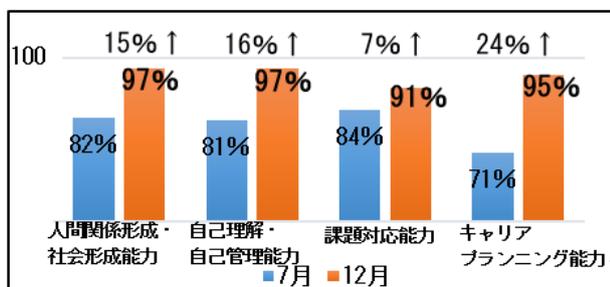


図15 キャリア教育アンケート

以上のことから、キャリア教育の要である「学級活動」の実践において、目指す資質・能力を意識化し、自己理解を深める継続した実践を通して、次なる課題解決に向かって互いのよさや可能性を発揮できる児童の育成につながったと考える。

## IX 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 目指す資質・能力における三つの視点を記号化し、振り返りカードや学級のあゆみ等で視覚化することで、今の自分を振り返り、身についた力を自覚し、自己理解を深めることにつながった。
- (2) 学びをつなぐフィードバックを可視化し、言語化して価値づけることで、互いのよさや可能性を発揮しながら次なる課題解決へと向かうことができた。

### 2 課題

- (1) 目指す資質・能力につながる三つの視点による評価の在り方をさらに見いだす。
- (2) 学級活動の実践による学びと特別活動のその他の活動との関連を見いだす。

おわりに

キャリア教育の要である特別活動「学級活動」を通して、自己理解を深め、互いのよさや可能性を発揮できる児童を目指して研究を進めてきました。自分を見つめ、学びを自覚する姿。相手のことを理解しようと話し合う姿。相手の思いや願いを受け入れ、課題解決に向かう姿。振り返りをもとに仲間と対話し、互いのよさを認め合う姿。このような具体的な姿を見取ることを通して、児童一人一人の成長を実感できたことは、私にとって大きな喜びでした。

この研究を通して学んだ半年間は、私自身を見つめ直すことができる貴重な機会となりました。今後は、さらに研鑽を積み、学級が互いのよさや可能性を発揮し、一人一人が輝く場となるよう、児童と共に、学級活動の充実に努めていきます。

研修期間中、また入所前研修から多くのご指導ご助言を頂きました。長濱京子所長をはじめ、教育研究所の先生方、職員の皆様、検証授業や報告書等でご指導ご助言を頂きました浦添市教育委員会の諸先生方へ深く感謝申し上げます。最後に、本研究の機会を与え、快く研究所に送り出して下さった宮城小学校宮國義人校長をはじめ、同校の職員の皆様、そして第48期長期教育研究員として半年間の研修を共に励んだ研究員の先生方に心より感謝申し上げます。

#### 【主な参考・引用文献】

- ・中央教育審議会 文部科学省(2016) “幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申) [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)
- ・文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領解説 総則編』 東洋館出版社
- ・文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社
- ・安部恭子 (2019) 『新学習指導要領とキャリア教育』『初等教育資料』第977号・2月号 東洋館出版社
- ・杉田洋 (2019) 「『キャリア・パスポート』の導入に向けたQ&A」—「特徴」「活用」「運用」— 『道徳と特別活動』 第36巻第7号・10月号 文溪堂
- ・文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター (2019) 『指導資料 みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』 文溪堂
- ・安部恭子 (2019) 「キャリア教育の要としての特別活動を考える」『初等教育資料』第977号・2月号 東洋館出版社
- ・文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領』 東洋館出版社
- ・文部科学省 (2019) “『キャリア・パスポート』例示資料等について” [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/detail/1419917.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1419917.htm)
- ・杉田洋 (2009) 『よりよい人間関係を築く特別活動』 図書文化社
- ・ジョン・ハッティ (2018) 『教育の効果』 図書文化社
- ・文部科学省 (2017) 『小学校キャリア教育の手引き(改訂版)』 教育出版